

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	17-デ学-6
-----------------	---------

平成17年度配分 研究成果の概要

研究名	21世紀型人材育成に関するメタ認知心理学の研究				
配分を受けた 特別研究費	デザイン学部長 特別研究費 1570 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	デザイン	情報デザイン	助教授	長嶋 洋一	
共同 研究 者					
発表の方法 (予定で可)	① 紀 要		号 数	第 6 号 2006 年 3 月発行)	
	② 学会等での発表 学会等名: 情報心理学会 → 6回		発表日 (発表 予定日)	平成17年 6 月 9 日 ～ 18 年 7 月 6 日	
	③ その他 発表の方法:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

本研究は、視覚的情報と聴覚的情報と身体運動感覚情報を同時に体験するマルチメディア心理学実験をデザインし、メディア心理学に関連した応用システム開発を行うことを目指した。

また、メディア心理学に関連したヒューマンインターフェースの生理的計測手法として、本学(人体計測実験室)にある設備・環境について調査した。

(研究の実施方法等)

2004年の論文「音楽的ビートが映像的ビートの知覚に及ぼす引き込み効果」でのメディア心理学実験を受けて、対象として社会的に注目されているFLASHコンテンツに注目して、映像と音楽との相乗作用によるエンタテインメントの領域で広範なメディア心理学的調査を実施した。その成果をふまえ、21世紀の日本のコンテンツ産業においても求められている、著作権フリーのコンテンツ用サウンドトラック自動生成(自動作曲システム)の開発をテーマとして、応用システムの研究開発を実施した。関連する学会研究会等で積極的に発表し議論検討を重ねて、2006年3月に開発システムを完成・公開した。メディア心理学とビートに関連した生理的・心理的計測実験、ヒューマンインターフェース研究については、平成18年度学長特別研究において引き続き進めている。

(得られた成果等)

マルチメディアコンテンツとして急激に普及拡大し注目されている、FLASHやショートムービーを対象として、メディア心理学的な検討から新しい視点での著作権フリーのコンテンツ用サウンドトラック自動生成システムを開発した。成果はSUAC紀要、添付した6件の学会研究会発表などで発表するとともに、公開サイト(<http://suac.net/FMC3/>)で公開中である。また、この研究全体をまとめた論文が、芸術科学会論文誌に採択されたとの連絡が2006年7月に届き、次回の論文誌に掲載される予定である。